森中だより

３月号

令和４年３月 18 日発行

横浜市立森中学校　校長　吉原　準一

３月９日

本校の卒業式が終了いたしました。森中にとっては、38 回目。３年生にとっては、中学校での最初で最後の卒業式。私にとっても最後の卒業式となりました。お陰様で、今年もまた、会場内の最高のポジションで式に参加させていただきました。大変光栄に思っております。卒業生それぞれが実によい表情で大変に素敵でした。149 名の旅立ちです。今年は、「感謝すること」を一緒に考えてもらいました。これからも、「日常」を大切に頑張って欲しいと思っております。森中の 38 回卒業生に「幸」多かれと祈ります。京急沿線にはモクレンが目立つようになりました。

校長　吉原　準一

第３８回卒業式

149 名の３年生が、森中学校から卒業しました。厳粛な雰囲気の中、卒業生は緊張の面持ちで式に臨みました。はっきりと大きな声で返事をする生徒や、歌を懸命に歌う生徒など、自分たちの卒業式に対する思いがこもった卒業式でした。

「在校生送る言葉」では、２年生代表である川野智基さんから、卒業生の背中を押すような力強い言葉をいただきました。

「卒業生別れの言葉」では、生徒会長の和田梓さんから、３年間を振り返る言葉が読まれました。言葉の一つひとつに心がこもっており、それぞれの顔を見ながら話す姿には力強さがありました。今まで積み重ねた想いを確かめるように、学年全体の歩みについて触れ、同時にこれからの生活に対する決意がそこにはありました。

卒業式の前に、３学年の生徒の皆さんに話した内容が一つあります。あくまで私個人の考え方ですが、「なぜ卒業式をするのか」というものでした。私たちは誕生した時に様々な人から祝福され、愛され、人生を終えるときには惜しまれながら、一生を全うしたことを様々な人に見届けられます。立場や年齢に関係なく、皆に訪れる瞬間です。最大限の祝福と、最大限の見送りが、そこにはあるのではないでしょうか。学校への入学、卒業も私は同じようにとらえています。私たちは出会いと別れを繰り返します。出会うはずのなかった人たちが人生の中で出会う、これは奇跡的なことです。そうであるならば、私は生徒が学校に入学するときには精一杯の気持ちで迎え、卒業の時にはすべての気持ちを込めて送るべきだと考えています。それが形となったものが、入学式や卒業式なのではないでしょうか。

改めて、卒業した１４９名の生徒の皆さん、保護者の皆様、関わってくださったすべての方々に感謝しています。

３年学年主任　大谷　理仁

２年生　職業講話会

２年生は、２月22日（火）に職業講話会を実施しました。生徒の希望する職業についてのアンケート結果に基づいて講師を探し、12の職業に従事する方々に協力を依頼しました。

どの方も、「未来の日本社会を担う中学生のために役に立てるなら、喜んでお話しします」と快く引き受けてくださいました。生徒たちは、それぞれが興味のある２つの職業の講師から、この仕事を目指すきっかけ、仕事内容、やりがい、大変なことなど、実に様々な話を聞きました。生徒たちは、熱心に耳を傾けメモを取っていました。普段気に留めることもないことについて意外な発見があったり、将来について改めて考えたりする有意義な機会となりました。

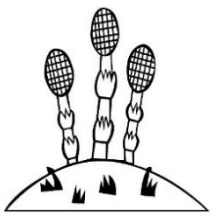
生徒の感想から：印象に残ったこと

- どのようなことでもまず挑戦してみることが大事ということがわかりました。私はチャレンジ精神がないと前から思っていたのですが、講師の先生方の話を聞いていろいろなことに挑戦したいと思いました。
- 声を出すには訓練が必要、笑顔が一番大事、目の前のことをしっかり果たすことが大事、お客様を第一に考えることが大切。
- 勉強するに越したことはないけど、勉強したからといっていい仕事ができるわけではない。勉強して身に付けた知識や技術が結びつく必要がある。根気よく続けることが大切。
- 人前に立つのは緊張する。お客様は味方！と思うことが大切。上手になるには基礎が大切。
- 体を張った命にかかわる仕事をするのは大変。努力しても報われなかったときはつらい。
- 壁にぶつかったときにどうやって乗り越え解決していくのかを考えていくことが大切。
- ホッキョクグマはりんごが大好き。セイウチは餌を50㎏食べるので餌の魚をたくさん裁かなければならないので大変。
- 自分のすきを突き詰めて、ここまで努力できるのかと思った。
- １日に何回も大阪と東京を往復していること。９時から翌日の９時まで仕事をしていること。

No.	講師名	講師の職業（勤務先）
1	城田 先生	衣料品店店長 （柳屋　杉田店）
2	藤井 先生	幼稚園保育主任（森幼児園）
3	根本 先生	デイサービススタッフ （磯風の謡デイサービスセンター）
4	宮崎 先生	ダンス講師
5	堀 先生	劇場スタッフ （磯子区民文化センター杉田劇場）
6	福島 先生	警察官（磯子警察署）

No.	講師名	講師の職業（勤務先）
7	秋山 先生	畳職人・畳店経営者 （秋山畳店）
8	長谷川 先生	キャビンアテンダント （日本航空）
9	望月 先生	スポーツ選手 （横浜マリノス）
10	山形 先生	水族館飼育員 （八景島シーパラダイス）
11	白勢 先生	自動車整備会社社長
12	山田 先生	車掌（JR東海）

２年　教諭　小沼　利江子



１年生　初めての SEPRO（セプロ）

２月 24 日（木），25 日（金）に英語 TT の授業で、１年生の SEPRO（スーパーイングリッシュプログラム）が行われました。例年磯子区内の AET の先生がひとつの学校に集まって行われる授業ですが、今年は初めて zoomを使ったオンラインでの実施となりました。今回、「学校紹介をしよう」という単元で、班ごとに森中の行事や学校生活について AET の先生に発表しました。原稿づくりの時間では、絵を描いたり、パソコンを使って写真や英語の文章を入れたりと、それぞれが工夫し、上手に発表することができました。その後の質問の時間では、授業で習った会話文や単語を思い出しながら、ジェスチャーも交えて伝えようと頑張っていました。どの班からも笑い声が多く聞こえ、終始 AET の先生との時間を楽しく過ごせたようでした。来年はさらに英語の力を付けた上で、対面での授業ができる世の中になっていてほしいと願っています。

１年　英語科　長谷川　美穂

あすチャレ！スクール

３月１日（火）に２年生が３，４時間目、１年生が５，６時間目に「あすチャレ！スクール」を実施しました。あすチャレは、パラアスリートと共にスポーツを体験し、リアルな声を聴くことで人間の多様性を認め合い、新たな学びの機会になればということで開催しました。

講師はソウルから北京まで６期連続、２０１６年パラリンピックを含め７回車いす陸上出場の永尾嘉章さんに来ていただきました。講演内容はパラスポーツの動画紹介に始まり、レーサーという陸上で使われる車いすで試技を見せていただきました。その後、代表生徒たちがレーサーに乗り、速度対決をしました。なかなか乗る機会のないレーサーに見ている子供たちも興味津々でした。次に各クラス５名ずつ選出され、クラス対抗車いすリレーを行いました。こちらの車いすは、車いすバスケットに使われるものです。

後半は、永尾さんよりご自身の人生を振り返りながら、「あきらめないことの大切さ」についてお話していただきました。「好きなことをやっていても挫折することはあり、それでもあきらめなければどんなことも乗り越えられる」という永尾さんからの温かく熱いメッセージを、いつも心の片隅に置いてこれからの毎日を送ってもらいたいと思います。

１学年主任　中谷　郁　　２学年主任　内山菜美

春休みを迎えるにあたって

間もなく令和３年度も終わりを迎えることになります。この１年間、保護者の皆様には様々な教育活動へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

今年度は３月２５日（金）に修了式が行われ、２６日（土）から４月６日（水）まで春休みとなります。春休みは、この１年間の振り返りをするとともに、新年度に向けた準備の期間となります。新たな気持ちで、４月７日（木）から新年度がスタートできることを期待します。

さて、長期休業期間は、気持ちの緩みから思いもよらない事故やトラブルに巻き込まれることがあります。主な注意点として、

①交通事故　②地域での迷惑行為　③危険な場所の出入り　④行き先不明や遅い帰宅
⑤金品の授受や貸し借り　⑥個人情報の取り扱い　⑦ＳＮＳ等の不適切利用

などがあります。

学校において生徒への指導も行いますが、ぜひご家庭においても未然防止のはたらきかけをお願いいたします。

生徒指導専任　細谷　政幸

学校からのお願い

・春休み期間中、お子様が新型コロナウイルス感染症と診断された場合、濃厚接触者として経過観察を指示された場合は、学校（７６１－２３２１）へご連絡ください。
なお、土日は日直不在のため、週明けにご連絡ください

・健康観察については、春休み期間中、４月７日までロイロノートに入れてください。

保健室より

今月の表彰

○　横浜市立中学校作文コンクール　佳作賞（１年　俳句）
１年５組　山村　恵　さん